

平成27年度 校内研修計画

(1) 研究主題

生き生きと学び合う児童の育成をめざして
～算数科における複式指導・少人数指導の工夫を通して～

(2) 研究主題・目指す子ども像の示す意味

- ①「生き生きと」とは、子どもが学習への関心を高め、意欲をもって主体的に学習する姿を目指している。子どもたちは少人数のよさを生かした指導により「分かる喜び」を実感したり、「できた」という達成感を感じたりすることで、「学ぶ楽しさ」を感じるであろう。学ぶ楽しさを感じた子どもは意欲的に学習に取り組むようになると思う。年間指導計画の工夫や複式支援教師の活用など、あらゆる角度から方策を実践し、研究主題に迫る。
- ②「学び合う」は、子どもたちがかかわり合って学びを深めていくことを狙っている。子どもたちは、友だちの考えを聞いたり、自分の考えを聞いてもらったりすることで、「ともに学ぶことの楽しさ」を感じると考える。また、友だちの多様な考えに触れることにより、さらに高い考え方を求めるようになるであろう。これらのかかわり合う学習活動（ペア・小集団学習やガイド学習）を通して、学び合う児童の育成を図っていく。

(3) 研究仮説

複式指導、少人数指導において、効果的な単元配列や複式支援教師の活用を工夫し、「理解の深化」や「深める」過程での間接指導時に、児童がペア学習やガイド学習などのかかわり合う学習の進め方を身に付ければ、意欲をもって主体的に学習することができ「生き生きと学び合う児童」が育つであろう。

(4) 研究内容

- ①かかわり合う学習活動（ペア学習、ガイド学習）
 - 形式的なものにならない、効果的なペア学習。
 - 算数に限らず全ての教科・領域においてペア学習を行っていく。
 - 効果的・・・
 - ・ペア学習で発表の練習ができ、自信をもって全体で発表することができる。
 - ・ペア学習で友だちに説明することで、自分の考えがはっきりしてくる。
 - ・ペア学習で友だちの考えを聞くことでわからなかったことがわかる。
 - 学年の発達段階に応じたペア学習の内容
 - ・低学年は、まずは話型などの形から入る。
 - ・中学年では、友だちの意見を自分の考えと比べながら聞き、自分の考えを言う。
 - ・高学年では、自分と友だちの考えの相違点を考えながら、よりよい考えを見つけ出す。
 - 学年の発達段階に応じたガイド学習
 - ・低学年はガイド役を固定して、ガイドとフォロワーの役割をしっかりと身につけさせる。
 - ・中学年では、全員がガイド役ができるようになる。
 - ・高学年では、ガイド学習の手引きを使うことなく、その時のめあてに準じたガイド学習が自分たちで行えるようになる。
- ②複式支援教師の効果的な活用
 - 担任と複式支援教師の情報共有（進捗、展開、児童の理解）の焦点化
 - ガイド役への的確な指示、適度な助言

○練り合い場面で行き詰まった時、授業を展開させる、またはまとめる役割

○個に応じた支援

③学力向上をめざした算数科の指導

○複式学級での教えて考えさせる授業と問題解決学習の併用を生かした「わたり」と「ずらし」

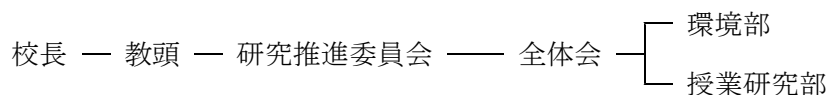
○単式学級での教えて考えさせる授業

○効果的な算数的活動

○算数タイムの活用→週2回行う。

領域別になっている問題集を購入し実施。教育センター「長崎県学力向上
「活用教材」を活用する。

(5) 研究組織



部 会	部 員	活 動 内 容
授業研究部	早田, 永田, 齋藤, 中野	<ul style="list-style-type: none"> ・ペア学習, ガイド学習の進め方 ・複式支援教師の指導についての研究 ・複式における「わたり」と「ずらし」の研究
環境部	春田, 大平	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの実施と分析等 ・算数コーナーの充実・環境整備

※研究推進委員会（校長・教頭・教務主任・研究主任）は、必要に応じて実施する。

(6) 年間計画

月	日	曜	内 容
4	10	金	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度の研究の方向性と研究主題 ・研究仮説及び組織 ・研究授業及び現職教育の内容について
4	15	水	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表の授業者の決定及び役割分担 ・中間指導での授業者の単元決定
5	13	水	・研究授業Ⅰ（中間指導）の第1回指導案検討
5	27	水	・研究授業Ⅰ（中間指導）の第2回指導案検討
6	中旬		<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業Ⅲ（中間発表）での単元決定 ・校内研修計画についてまとめる（中間指導用；研究主任）
			(模擬授業) ↓
6	25	水	・中間指導（研究授業Ⅰ：3・4年研究授業）
6	末		・研究授業Ⅲ（中間発表）の粗案完成
7	21	火	・中間指導での指導内容について共通理解を図る。
	22	水	・部会及び部会報告
	23	木	・研究授業Ⅱ, 研究授業Ⅲ（中間発表）の第1回指導案検討

8	6 7	木 金	・研究授業Ⅱ，研究授業Ⅲ（中間発表）の第2回指導案検討 ・部会
8	28	金	・研究授業Ⅱ，研究授業Ⅲ（中間発表）の第3回指導案検討→完成 ・校内算数コーナーの充実
10	7	水	・研究授業Ⅱ（5・6年研究授業）
10	28	水	・中間発表に向けて（模擬授業・研究全体会の模擬発表等）
10	30	金	・中間発表の準備（会場作り等）
11	5	木	・中間発表（研究授業Ⅳ：3・4年研究授業）
11	25	水	・研究授業Ⅳの第1回指導案検討
12	25	金	・研究授業Ⅳの第2回指導案検討 ・中間発表の反省（成果・課題）の共有
1	20	水	・研究授業Ⅳ（2年研究授業）
1	27	水	・部会及び部会報告
2	3	水	・研究仮説の検証
2	12	金	・研究のまとめ完成（各担当原稿）
2	24	水	・本年度の反省と次年度の方向性

※日課を工夫して，臨時的に校内研もしくは研究推進委員会が開けるようにしておく。

※アンケートについて

第1回目は，中間指導に考察まで間に合わせる。

第2回目は，研究集録までに間に合わせる。

(7) これからの取組

○授業者だけではなく，全職員で授業を作り上げていく。

- ・研究主任→研究に関すること全般，中間発表での発表原稿作成
- ・中間指導授業者→指導案作成，授業の実施
- ・中間発表授業者→指導案作成，授業の実施
- ・その他の担任→指導案検討，教材作り，教室環境整備など細かく役割分担を行う 等

○他校の研究会に積極的に参加し，研究に生かす。

- ・「複式教育」もしくは「算数科」に係る研究会や先進校視察を計画的に行う。

○指導案の本時の展開の中に「前時の流れ」や「後時の予定」を入れる。

○子どもを鍛える手立て→全校での取り組み

研究の構想

生き生きと学び合う児童の姿

研究のまごめ・研究発表

実践研究

基礎研究

三年次

二年次

一年次

効果的な単元配列

小集団学習形態の確立

複式支援教師の活用

本校の児童の実態